

㈱EDO 主催 ・ 岐阜みらいカレッジ共催  
緊急 zoom 講演会

# withコロナ時代に 高校と地域が 打つべき一手とは

令和2年 5月 2日(土) ・ オンライン  
大正大学 地域創生学部  
教授 浦崎 太郎

4 夏休み・長期休暇  
みんなに

9 授業と探究授業  
授業をつくり

11 学校再開後の  
授業をつくり

17 小中高の学び  
目標を達成しよう

大正大学  
DAISEI UNIVERSITY

1

## 本日のゴールとストーリー

■ **ゴール** .. ①~③を意識してご参加下さい

- ① 大局観をもって目前の課題に対処すれば  
高校教育改革を力強く推進できると実感できる
- ② 学校再開後の実践イメージを明確に描けている
- ③ 今後の一歩・5月の計画が明らかになっている

■ **ストーリー** = 「O/L 探究」模擬体験(→交流)

課題設定: 浦崎の講演を聴きながら「問い」をもつ  
↓ 浮かぶ度に「メモ」→ チャットで送信しない  
情報収集: 予め採用された質問に浦崎ほかが回答  
整理・分析~まとめ・表現: 各自で「メモ」してください

2

## 授業づくりと土壌づくり

授業づくり  
何を学べるか  
どのように学べるか

土壌づくり  
誰と学べるか  
どのような環境で学べるか

クラスづくり = 関係性醸成  
(教師-生徒 / 生徒集団)

部活動  
(自分らしく挑戦・表現する場)

生徒指導  
(落ち着いた環境づくり)

これまで高校が重ねてきた努力

3

## 「Society 5.0」と「探究」

- Society 1.0 狩猟採集社会 (縄文)
- Society 2.0 農耕社会 (弥生~江戸)
- Society 3.0 工業社会 (明治・大正・昭和)
- Society 4.0 情報社会 (平成~)
- Society 5.0 AI 社会 (もうすぐ?)

■ **Society 5.0 (AI時代)**  
人間にしかできないこと = 探究

4

## 社会の“種類”と次世代の育成

- **Society 2.0 (農耕社会)** .. 均質性重視
  - ・ 先祖伝来の土地や文化をそのまま継承
  - ・ 個性や抜きん出た才能は不要
- **Society 3.0 (工業社会)** .. 均質性重視
  - ・ 「規格品の大量生産」が富の源泉
  - ・ 人も「規格品の大量生産」.. 個性は封印
- **Society 4.0 (情報社会)** .. 多様性重視
  - ・ “三人寄れば文殊の知恵”が富の源泉
  - ・ 「個別最適化」で熱情や個性を徹底開放

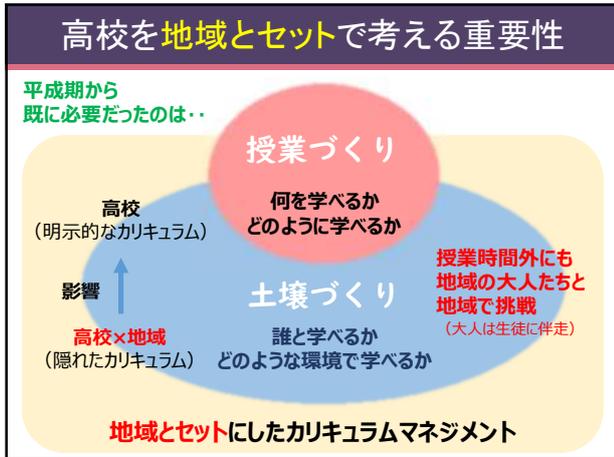
5

## Society 3.0 の教育 vs 4.0 の教育

3.0 (工業社会)	4.0 (情報社会)
・ 定型作業に需要	・ 価値創造に需要
・ 人も規格品が有利	・ 尖った人物が有利
・ 生徒は学校に従属	・ 学校が個性を開花
・ 興味関心を封印	・ 興味関心を尊重
・ 全員一律(40名クラス)	・ 学びの個別最適化
・ 管理強制	・ 挑戦に伴走
・ 人や社会から遮断	・ 人や社会と繋げる
・ 学校で完結可能	・ 学校で完結不可能

平成は世界の潮流に逆行して衰退した時代

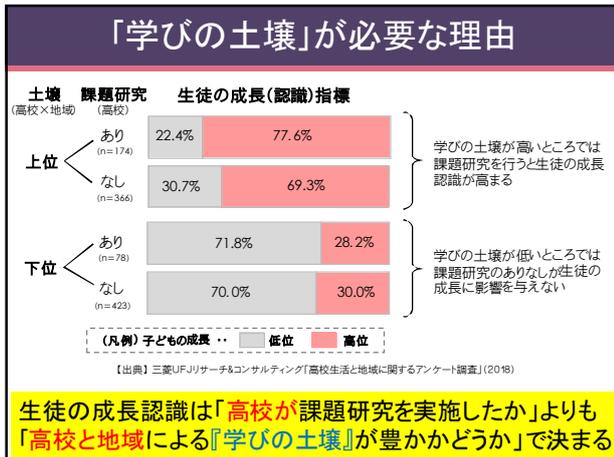
6



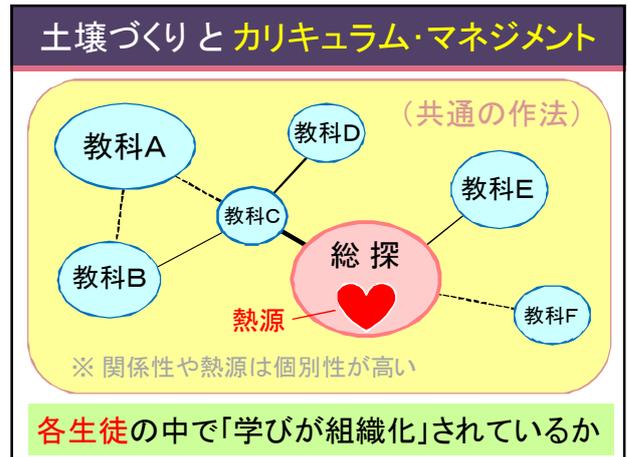
7



8



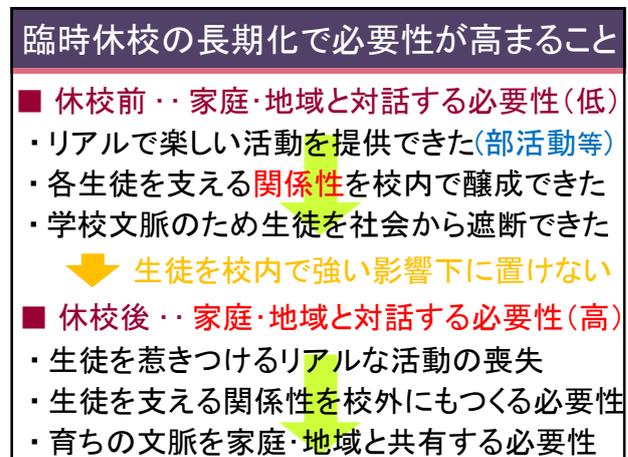
9



10



11



12



いま可能な「探究・キャリア教育・ふるさと教育」

そもそも、臨時休校によって外出や会合の自由が厳しく制限されているのに、探究は可能なのか？

↓

**オンライン上でも可能である！**

むしろ オンライン化によって可能性が広がっている

↓

ただし それには 予め

学校と地域の関係性を醸成する必要がある

**オンラインで どのように醸成すればよいか？**

19

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) <small>外部</small>

**学校と地域の関係性醸成**

○ 始めから代表者どうして協議を行うのは困難な場合が多いので、各方面から対話のできる幹部を選び、実務面のイメージを共有する。

20

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) <small>外部</small>

**学校と地域の関係性醸成**

**第1サイクル**  
Aの話をも皆で共有する。

21

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) <small>外部</small>

**学校と地域の関係性醸成**

① Aのスピーチを皆で聴く(5分程度)  
・ 資料を事前に配付し目を通しておくことよい  
・ YouTubeに上げておけば時間を短縮可能

22

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) <small>外部</small>

**学校と地域の関係性醸成**

② Aへの質問をチャットに入力する(5分程度)  
・ 浮かんだ問いをメモした上で2~3つを厳選  
・ 早く届けばAは余裕をもって用意できる

23

A 学校(部長級)	B PTA(幹部)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) <small>外部</small>

**学校と地域の関係性醸成**

③ BがAに「1つだけ」質問する(送った中から)  
・ 感想や意見は言わない = 質問だけ  
・ 複数の内容を質問しない

24

<b>A</b>  学校(部長級)	<b>B</b>  P T A (役員)	<b>C</b>  行政(係長級)
<b>D</b>  民間団体(幹部)	<b>E</b>  コーディネーター	<b>F</b>  進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ④ **AがBの質問に答える**

- ・簡潔に答える
- ・必要に応じて関連した内容を補足する

25

<b>A</b>  学校(部長級)	<b>B</b>  P T A (役員)	<b>C</b>  行政(係長級)
<b>D</b>  民間団体(幹部)	<b>E</b>  コーディネーター	<b>F</b>  進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑤ **CがAに「1つだけ」質問する (送った中から)**

- ・感想や意見は言わない = 質問だけ
- ・複数の内容を質問しない

26

<b>A</b>  学校(部長級)	<b>B</b>  P T A (役員)	<b>C</b>  行政(係長級)
<b>D</b>  民間団体(幹部)	<b>E</b>  コーディネーター	<b>F</b>  進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑥ **AがCの質問に答える**

- ・簡潔に答える
- ・必要に応じて関連した内容を補足する

27

<b>A</b>  学校(部長級)	<b>B</b>  P T A (役員)	<b>C</b>  行政(係長級)
<b>D</b>  民間団体(幹部)	<b>E</b>  コーディネーター	<b>F</b>  進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑦ **DがAに「1つだけ」質問する (送った中から)**

- ・感想や意見は言わない = 質問だけ
- ・複数の内容を質問しない

28

<b>A</b>  学校(部長級)	<b>B</b>  P T A (役員)	<b>C</b>  行政(係長級)
<b>D</b>  民間団体(幹部)	<b>E</b>  コーディネーター	<b>F</b>  進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑧ **AがDの質問に答える**

- ・簡潔に答える
- ・必要に応じて関連した内容を補足する

29

<b>A</b>  学校(部長級)	<b>B</b>  P T A (役員)	<b>C</b>  行政(係長級)
<b>D</b>  民間団体(幹部)	<b>E</b>  民間団体(幹部)	<b>F</b>  進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑨ **EがAに「1つだけ」質問する (送った中から)**

- ・感想や意見は言わない = 質問だけ
- ・複数の内容を質問しない

30

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑩ AがEの質問に答える  
 ・ 簡潔に答える  
 ・ 必要に応じて関連した内容を補足する

31

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑪ 質疑応答をさらに回す  
 ・ ③～⑩を繰り返す形  
 ・ 終了は「質問数の合計が10個程度」が目安

32

A 学校(部長級)	B PTA(幹部)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑫ Bが感想を述べる (1～2分程度)  
 ・ Aのスピーチや一連の問い一答に対して

33

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑬ Cが感想を述べる (1～2分程度)  
 ・ Aのスピーチや一連の問い一答に対して

34

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑭ Dが感想を述べる (1～2分程度)  
 ・ Aのスピーチや一連の問い一答に対して

35

A 学校(部長級)	B PTA(役員)	C 行政(係長級)
D 民間団体(幹部)	E コーディネーター	F 進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑮ Eが感想を述べる (1～2分程度)  
 ・ Aのスピーチや一連の問い一答に対して

36

A	B	C
学校(部長級)	P T A (役員)	行政(係長級)
D	E	F
民間団体(幹部)	コーディネーター	進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑩ Aが感想を述べる (1~2分程度)  
・一連の一问一答や感想に対して

37

B	C
学校(部長級)	行政(係長級)
D	E
民間団体(幹部)	コーディネーター

**学校と地域の関係性醸成** 第1サイクル終了 → 第2サイクル以後へ  
・簡潔明瞭を徹底すれば ①~⑩は30分で可能  
・B~Eを話者に第1サイクルと同様に進める

38

A	B	C
学校(部長級)	P T A (幹部)	行政(係長級)
D	E	F
民間団体(幹部)	コーディネーター	進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成** ⑪ オンライン飲み会 (オプション)  
・終了後に事情が許せば・・・

39

A	B	C
学校(校長)	P T A (会長)	行政(部課長級)
D	E	F
民間団体(代表)	コーディネーター	進行役(ファシリテーター) 外部

**学校と地域の関係性醸成**

- A~Dの幹部は成果を上司に報告
- A~Dの長が連携を確約しあう (速やかに)
- コーディネーターが関係性の詳細を説明

40

いま可能な「探究・キャリア教育・ふるさと教育」

そもそも、臨時休校によって外出や会合の自由が厳しく制限されているのに、探究は可能なのか？

↓

**オンライン上でも可能である！**

むしろ オンライン化によって可能性が広がっている

↓

ただし それには 予め

学校と地域の関係性を醸成する必要がある

↓

醸成した上で

高校生の「オンライン探究」をどう仕組みればよいか？

41

**高校生の探究課題設定**

① 各生徒が動画を選んで視聴する

- ・できる限り多様な人物像にふれる
- ・「もっと聴きたい」という講師を選ぶ

42

ひだびとONLINE  
チャンネル登録者数 121人

アップロード動画 ▶ オペレーター

コロナ時代の今「どんな大人が、何を感じ、どんな課題に、どんな展望を持ち、どう挑んでいるか」を収録したオンライン・ライブライブラリーを開設し、関係する高校の教職員や生徒がいくつか選択して視聴するよう手配する。  
・収録前に高校とも「趣旨・内容・利用法・留意点」等を十分に共有しておく。  
・コンセプトを共有する「通学圏外のチャンネル」を相互利用できるとよい。

**高校生の探究 課題設定**

② 「もっと聴きたい」講師宛てに質問を送信する  
・送信先は該当講師の「zoom交流会」に限定  
・浮かん多数の質問から数個を選んで送信

43

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

**高校生の探究 情報収集**

③ その講師に質問を送った生徒らが集まる  
・教職員は「社会・教科・進路」をつなぐべく参加  
・圏域内外の複数校から参加 ・聴くだけでも可

44

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

**高校生の探究 情報収集**

④ 自ら設定した課題を各生徒が大人に伝える  
・まずは動画を視聴した感想を述べる  
・この課題に行き着くまでの経緯を説明する

45

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

**高校生の探究 情報収集**

④ 自ら設定した課題を各生徒が大人に伝える  
・まずは動画を視聴した感想を述べる  
・この課題に行き着くまでの経緯を説明する

46

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

**高校生の探究 情報収集**

⑤ 生徒が講師らに「1つずつ」質問する  
・予め送った内容に補足説明をして質問する

47

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

**高校生の探究 情報収集**

⑥ 講師や関係者が回答する  
・必要に応じて関連した内容を補足する

48

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑥ 講師や関係者が回答する  
・必要に応じて関連した内容を補足する

高校生の探究  
情報収集

49

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑥ 生徒が講師らに「1つずつ」質問する  
・予め送った内容に補足説明をして質問する

高校生の探究  
情報収集

50

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑥ 講師や関係者が回答する  
・必要に応じて関連した内容を補足する

高校生の探究  
情報収集

51

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑥ 講師や関係者が回答する  
・必要に応じて関連した内容を補足する

高校生の探究  
情報収集

52

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑦ 教職員が質問を発するのはもちろんOK  
・「社会・教科・進路」をつなぐ役割の一環です  
・生徒に「教職員ならではの」の問いかけも有益

高校生の探究  
情報収集

53

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑧ ディスカッション  
・各生徒は意見交換しながら考えを表明する  
・大人は各生徒の思考が深まるよう問いかける

高校生の探究  
整理・分析

54

D	E	
生徒(1)	生徒(2)	

**高校生の探究** ⑨ 各生徒は探究の成果をまとめる  
**まとめ・表現** ・結論を要約・図式化したシートを作成する  
 ・大人は「ブレイクアウト・セッション」

55

A	B	C
		CN 
講師	講師の関係者	コーディネーター ファシリテーター
		F 
		教職員(担当)

**高校生の探究** ⑩ 大人のミーティング (ブレイクアウト・セッション)  
**まとめ・表現** ・「次の探究」「各教科や進路との接続」を検討  
 ・後日「教職員は学校」「CNは地域」で成果を共有

56

A	B	C
講師	講師の関係者	コーディネーター ファシリテーター
	E 	F 
生徒(1)	生徒(2)	教職員(担当)

**高校生の探究** ⑪ 各生徒が探究の成果を発表する  
**まとめ・表現** ・結論を要約したシートを示しながら話す  
 ・「新たな疑問」も披露できるとベター

57

A	B	C
講師	講師の関係者	コーディネーター ファシリテーター
D 		F 
生徒(1)	生徒(2)	教職員(担当)

**高校生の探究** ⑪ 各生徒が探究の成果を発表する  
**まとめ・表現** ・結論を要約したシートを示しながら話す  
 ・「新たな疑問」も披露できるとベター

58

A 	B 	C 
講師	講師の関係者	コーディネーター ファシリテーター
D 	E 	F 
生徒(1)	生徒(2)	教職員(担当)

**高校生の探究** ⑫ コメントや感想を伝えあう  
**まとめ・表現** ・大人からは激励や「次への助言」を行う

59

A 	B 	C 
講師	講師の関係者	コーディネーター ファシリテーター
D 	E 	F 
生徒(1)	生徒(2)	教職員(担当)

**高校生の探究** ⑫ コメントや感想を伝えあう  
**まとめ・表現** ・大人からは激励や「次への助言」を行う

60

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑫ コメントや感想を伝えあう  
・大人からは激励や「次への助言」を行う

高校生の探究  
まとめ・表現

61

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑫ コメントや感想を伝えあう  
・大人からは激励や「次への助言」を行う

高校生の探究  
まとめ・表現

62

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑫ コメントや感想を伝えあう  
・大人からは激励や「次への助言」を行う

高校生の探究  
まとめ・表現

63

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

⑫ コメントや感想を伝えあう  
・大人からは激励や「次への助言」を行う

高校生の探究  
まとめ・表現

64

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

◎ オンライン茶話会 (オプション)  
・終了後に事情が許せば・・・

高校生の探究  
番外編

65

いま可能な「探究・キャリア教育・ふるさと教育」

そもそも、臨時休校によって外出や会合の自由が厳しく制限されているのに、探究は可能なのか？

↓

**オンライン上でも可能である！**  
むしろ オンライン化によって可能性が広がっている  
(具体策も描けている)

↓ 実は・・・

高校生の「オンライン探究」を体感できるよう  
現在進行中の「オンライン研修」に組み込んでいる

66

今日は予習動画と現在進行中のライブ講義が該当します

コロナ時代の今「どんな大人が、何を感じ、どんな課題に、どんな展望を持ち、どう挑んでいるか」を収録したオンライン・ライブラリーを開設し、関係する高校の教職員や生徒がいくつか選択して視聴するよう手配する。

- ・収録前に高校とも「趣旨・内容・利用法・留意点」等を十分に共有しておく。
- ・コンセプトを共有する「通学圏外のチャンネル」を相互利用できるとうい。

高校生の探究 課題設定

- ① 各生徒が動画を選んで視聴する
  - ・できる限り多様な人物像にふれる
  - ・「もっと聴きたい」という講師を選ぶ

67

本日のゴール・・・参加者がGW後に具体的にどんな一歩を踏み出せばよいか明らかにできる・・・に絡むご質問を優先的に受け付けます。(ただし1人1個まで)

高校生の探究 課題設定

- ② 「もっと聴きたい」講師宛てに質問を送信する
  - ・送信先は該当講師の「zoom交流会」に限定
  - ・浮かんだ多数の質問から数個を選んで送信

68

今日は・・・ 主催者が手配済 司会者・関口祐太さん

A 講師 浦崎  
B 講師の関係者  
C コーディネーター 兼 ファシリテーター

D 生徒(1) 質問者  
E 生徒(2)  
F 教職員(担当)

(チャットの中から趣旨に最も適合したご質問を関口さんが代弁)

高校生の探究 情報収集

- ③ その講師に質問を送った生徒らが集まる
  - ・教職員は「社会・教科・進路」をつなぐべく参加
  - ・圏域内外の複数校から参加 ・聴くだけでも可

69

A 講師 浦崎  
B 講師の関係者  
C コーディネーター 兼 ファシリテーター

D 生徒(1) 質問者  
E 生徒(2)  
F 教職員(担当)

(このプロセスは省略)

高校生の探究 情報収集

- ④ 自ら設定した課題を各生徒が大人に伝える
  - ・まずは動画を視聴した感想を述べる
  - ・この課題に行き着くまでの経緯を説明する

70

A 講師 浦崎  
B 講師の関係者  
C コーディネーター 兼 ファシリテーター

D 生徒(1) 質問者  
E 生徒(2)  
F 教職員(担当)

(関口さんが代弁)

高校生の探究 情報収集

- ⑤ 生徒が講師らに「1つずつ」質問する
  - ・予め送った内容に補足説明をして質問する

71

A 講師 浦崎  
B 講師の関係者  
C コーディネーター 兼 ファシリテーター

D 生徒(1) 質問者  
E 生徒(2)  
F 教職員(担当)

高校生の探究 情報収集

- ⑥ 講師や関係者が回答する
  - ・必要に応じて関連した内容を補足する

72

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1) 質問者	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

高校生の探究 情報収集

⑥ 講師や関係者が回答する  
・必要に応じて関連した内容を補足する

73

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1)	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

(このプロセスは省略 = 各参加者が考える)

高校生の探究 整理・分析

⑧ ディスカッション  
・各生徒は意見交換しながら考えを表明する  
・大人は各生徒の思考が深まるよう問いかける

74

A 講師	B 講師の関係者	C コーディネーター ファシリテーター
D 生徒(1) 質問者	E 生徒(2)	F 教職員(担当)

(このプロセスは省略 = 各参加者が考える)

高校生の探究 まとめ・表現

⑩ 各生徒が探究の成果を発表する  
・結論を要約したシートを示しながら話す  
・「新たな疑問」も披露できるとベター

75

### Society 3.0 を引きずった オンライン化

- ・工業社会に対応するため 定型作業を「言われた通り早く正確にできる」人材に需要
- ・教師が知識を伝える必要性(・・ネットなし)
- ・目も声も届く空間に「密集」させた規模が40名  
↓ 背景・制約・許容性を反映した学校像
- ・同じ学齢期の子供が 同じ空間で 同じ時間で 同じ内容を 同じ進捗で 教師が授業を進行  
↓ 陥りがちな傾向
- ・各教科担任が 時間割に従って クラス単位で一斉講義式の授業を zoom で 50分間 展開

76

### Society 4.0 に着地可能なオンライン化

- ・情報社会に対応するため 価値を創造できる 個性的な人材に需要(・・学びの個別最適化)
- ・生徒はネットで自身に合った学びを選択可能
- ・「密集・密接」が許されない状況(・・長期化?)  
↓ 「コロナ後」まで見通した学校像
- ・同じ空間・時間を共有する必要性が高い活動のみを学校で実施(・・地域毎に格差発生?)  
↓ ハイブリッドを意識したオンライン化
- ・県や高校レベルでオンデマンド等を実施
- ・教師は配慮を要する生徒を zoom 等で支援

77

自分の生活・学習スタイルに合わせて、平日の週1日から週5日まで自由に登校

同一教材を同一ペースで学ぶのではなく EdTechを活用した自分に合った最適な学び

自分の興味・関心に応じた学びにより、主体性・社会性・探究力・創造性等を身につける

自分で時間をカスタマイズ  
・・好きなことにチャレンジ

令和2年(2020年)4月、これまでない通制制高校が「望月」に誕生

長野県長野高等学校遠征制 望月サテライト校(案)

To The Next Stage  
～新しい学びのカタチ～

週1日でも、週5日でも、自分の生活・学習スタイルに合わせて柔軟な通制制

目標とする学びのペースにつける

自分の「好き」をきかめ

自分の興味・関心に応じた学びにより、主体性・社会性・探究力・創造性等を身につける

自分で時間をカスタマイズ  
・・好きなことにチャレンジ

R1.6.7.

78

### Society 3.0 & 安定期 の高校

- ・「専門性を要する」指導を「数少ない」教師が「より多くの」生徒に届ける必要性
- ・リアルに集まる必要性(…ネットなし)
- ・教科指導の品質や安定性を維持するため同一教科の教師を複数配置する方が有益
- ・同僚や地域との丁寧な意思疎通は不要
- ・ピンチやチャンスに対する機動性は不要

↓ 合理解

- ・大規模化して集約 (小規模校を統廃合)

79

### Society 4.0 & 不安定期 の高校

- ・「少数の」教師が「より多くの」生徒に「多様性に応じた」「専門性を要する」解説を届けるのは「オンライン環境」があれば可能
- ・「興味関心・志望」等に応じて 総探や諸科目の学びを「個別最適化」して組織化するには同僚や地域との丁寧な意思疎通が必要
- ・ピンチやチャンスに対する機動性が必要

↓ 合理解 (コロナ下の必要性とも合致)

- ・小規模化して分散 (周辺部へ意図的に誘導)

80

### 「高校 3.0」=「受験戦士量産校」の終焉

一人ひとりが個性・持ち味を最大限に開花

↓ 「学びの個別最適化」が必要

探究 … 一人ひとりの興味や関心に対応  
 教科 … // ペースやプロセスに対応

↓ 「N高等学校」等に兆し

「自分自身の成長」を実現できない高校へ時間や金銭をかけて通学し、一日ガマンして過ごす価値は何か？」に答えられるか？

81

### 「高校 3.0」=「受験戦士量産校」の終焉

変革が困難	変革が容易
都市部	周辺部
危機感なし	危機感あり
感覚や情報が古い	感覚や情報が新しい
内向き・閉鎖的	外向き・開放的
「全員一律」指向	「個別最適化」指向
高校も地域も大規模 (身動きが困難)	高校も地域も小規模 (身動きが容易)

82

### “高校教育”改革 … 未来予測

- 令和初年  
Society 5.0 にむけて高校をどう改革するか？
- 幕末  
Society 3.0 にむけて藩校をどう改革するか？

- ・まもなく 同じ現象が起こる
- ・本質は「若者の学びをどう変えていくか？」
- ・大局的には 経産省“未来の教室”が整合的
- ・藩校 約270校中、今日へ続いたのは約30校

83

㈱EDO 主催 ・ 岐阜みらいカレッジ共催 緊急 zoom 講演会

## withコロナ時代に 高校と地域が 打つべき一手とは

ご清聴ありがとうございました

令和2年 5月 2日(土)・オンライン

大正大学 地域創生学部 教授 浦崎 太郎

4 質の高い教育をみんなに  
9 産業と技術革新の高度向上を推進しよう  
11 持続可能な消費生活を実現しよう  
17 パートナリシップで地域社会を活性化しよう

大正大学

84